

ザ・ディスカバリーは調整局面でも強みを発揮

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
愛称 ザ・ディスカバリー
追加型投信/内外/株式

2022年の株式市場と参考ファンドの運用を振り返る

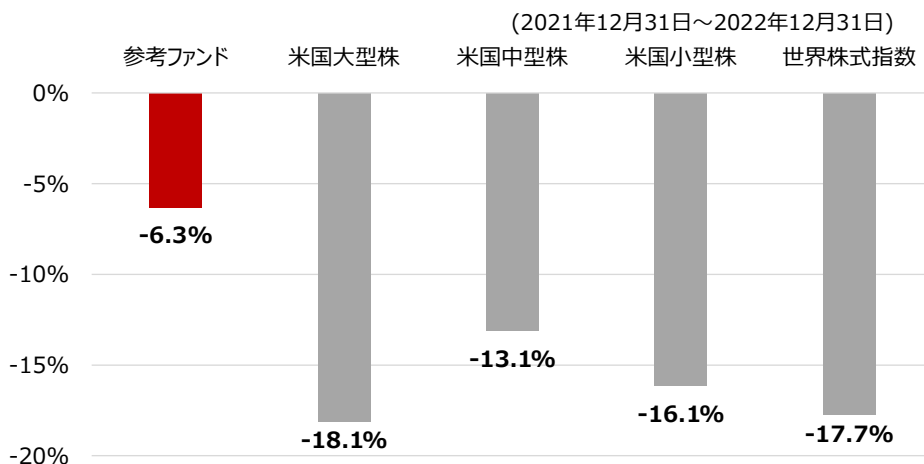
2022年の世界の株式市場は、インフレ加速と金利上昇が懸念材料となったことから、全般に軟調推移となりました。特に、企業価値に対する株価評価(株価バリュエーション)が割高であると見なされた銘柄の下落が目立ちました。規模別の株式指数でみた場合、割高と判断される銘柄を多く含む大型株指数が軟調となりましたが、割安な銘柄の多い中型株指数は、相対的に底堅い動きとなりました。(図表1)

一方、参考ファンド(注1)は世界の中型株を中心に投資するファンドとなりますが、**2022年のリターンは-6.3%**となり、大型株や小型株と比較し良好であった**S&P中型株400種指数のリターン(-13.1%)を上回りました**。参考ファンドは、優れた銘柄発掘力と幅広い銘柄への分散投資を強みとしています。金利上昇や景気への懸念などを背景に、市場の動き(ボラティリティ)が激しくなる環境においても、参考ファンドの強みが確認できたと考えています。

具体的な運用面では、**エネルギーセクターおよび金融セクターの組入れを高めたこと**、および両セクターにおける**的確な銘柄選択**がパフォーマンスに貢献しました。エネルギーセクターに関しては、原油価格上昇の追い風を受けたことに加え、**コスト効率に優れた銘柄などを選別**して投資したことがプラスに働きました。金融セクターでは、金利上昇の恩恵を受けやすい銀行を多めに保有したことや、**独自の強みを持つ保険会社の保有**などがプラスに寄与しました。

(注1) 主要投資対象ファンドと同様の運用担当者・投資哲学・運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「Fidelity® Mid-Cap Stock Fund」のデータです。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グローバル・コア株式マザーファンド」のデータではありません。

図表1. 2022年の年間リターン



※米国大型株はS&P500種指数、米国中型株はS&P中型株400種指数、米国小型株はS&P小型株600種指数、世界株式指数はMSCIワールド指数を使用。

※トータル・リターン、米ドルベース。

※S&P Dow Jones Indices LLCの各インデックスは、S&P Dow Jones Indices LLCが発表しており、著作権はS&P Dow Jones Indices LLCに帰属しています。

※MSCI指数はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(出所) フィデリティ投信、Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

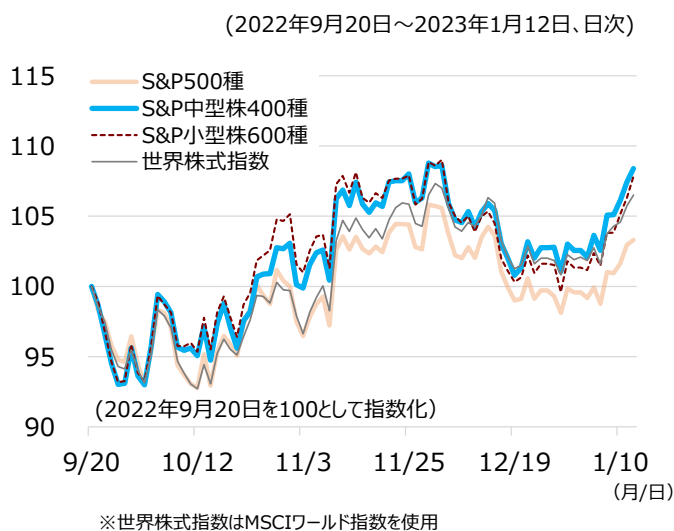
—本資料に関してご留意いただきたい事項—

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社で作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

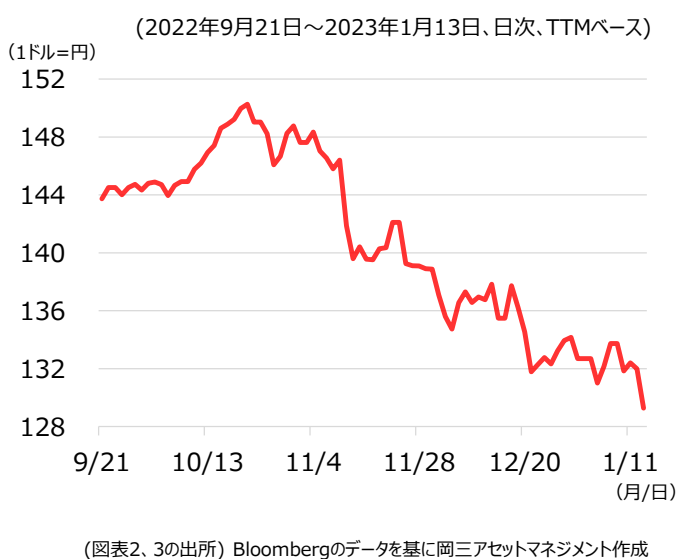
足元の株式市場と為替市場の動き

世界の株式市場は10月から11月にかけて上昇しましたが、12月は、米国における金融引き締め政策の長期化と景気後退が懸念されて反落しました。1月に入ってから、米国の賃金や消費者物価指数の伸びが鈍化したことを受けて、利上げペースの緩和が期待され株式市場は反発しています。為替市場(米ドル/円)は、米国のインフレにピークアウトの兆しが見られたことや、日銀が市場参加者の予想に反して金融政策を修正したことを受けて下落(円高ドル安)する展開となりました。(図表2、3)

図表2. 主要株価指数の推移



図表3. 米ドル/円の推移



当面の投資環境の見通し・運用方針

引き続きマクロ経済に対する懸念が株式市場に大きな影響を与えており、①**米国をはじめとする世界の主要先進各国がインフレ抑制のためにどこまで利上げを続けるか**、②その結果として**景気減速がどの程度深刻になるか**という2点が市場の焦点になっています。足元ではインフレにピークアウトの兆しが見られていますが、引き続き高水準での推移が続いており、今後もインフレ抑制のための利上げが続くと考えられます。加えて、企業の借り入れコストが増大するなか、バランスシートの健全性が試される局面も続くと考えられます。そうしたなかで金融市場のボラティリティは今後も高まりやすく、株式市場においては**的確な銘柄選択が非常に重要になる**と考えています。

運用においては市場の短期的な動きに惑わされず、長期的な企業ファンダメンタルズに着目することがより一層求められます。足元のような環境では特に**バリュエーション**や**キャッシュフロー創出力に注目**する必要があり、それに加えて**成長機会と資本集約度の大きさ**という点も重視して**銘柄を分析することが重要**と考えます。ボラティリティが高まりやすい今のような局面は、**市場が見誤っている有望な銘柄に割安な株価で投資をする好機**につながります。そうした好機を活かすため、**インフレへの耐性**があり、**支出をコントロール**でき、結果として**将来のキャッシュフロー創出力が高い企業**を見出すことに注力しています。

—本資料に関してご留意いただきたい事項—

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
 ■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

注目銘柄（金融セクター）【アーチ・キャピタル・グループ】

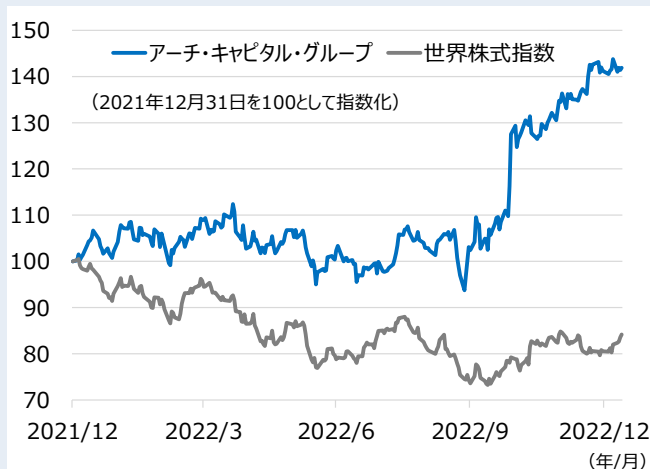
現在注目している銘柄の一つが、金融セクターのアーチ・キャピタル・グループです。同社は世界の専門的な保険サービス分野におけるリーディング・カンパニーであり、住宅ローンの補償保険などにより安定的に高いキャッシュフローを創出しています。また、経営陣が規律を持った財務運営を行っており、過度なレバレッジを回避し、堅実な手元流動性を維持している点も評価できます。

市場では同社の長期にわたる成長力が過小評価されており、今後も株価には上昇余地が大きいと考えています。

2022年、世界株式^(注2)が約19%下落するなか、安定したキャッシュフローや持続的な成長力が評価され、同社の株価は約41%上昇しました※。不安定な相場環境だからこそ、徹底したボトム・アップ・リサーチに基づいて優れた銘柄を発掘することが肝要と考えられます。

図表4. アーチ・キャピタル・グループの株価推移

(2021年12月31日～2023年1月12日、日次)



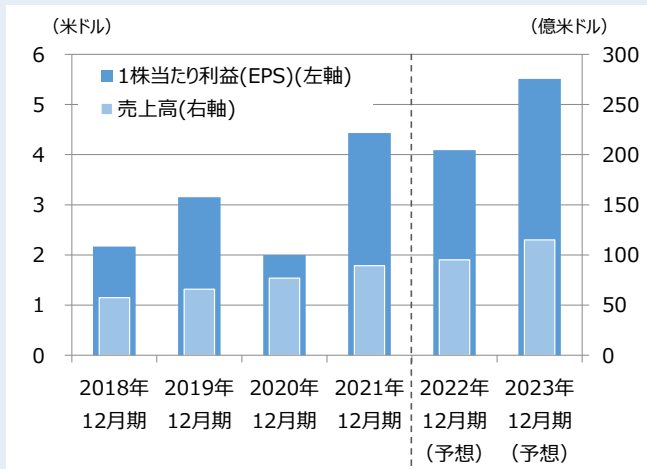
※いずれも配当金再投資を考慮せず

(注2)世界株式指数はMSCIワールド指数を使用。

MSCI指数はMSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

図表5. アーチ・キャピタル・グループのEPS、売上高の推移

(2018年～2023年、年次、予想を含む)



(図表4、5の出所) Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成



※写真はイメージです

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

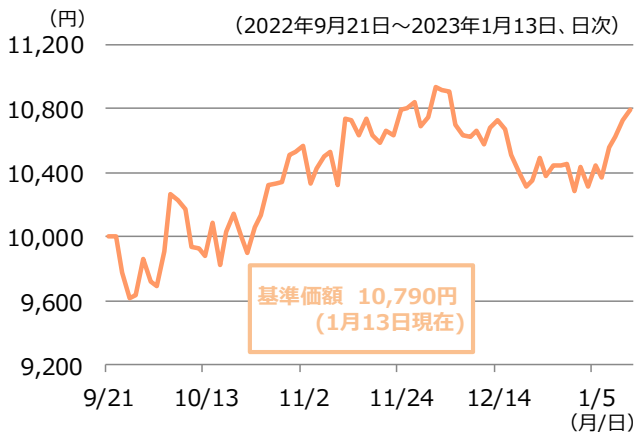
—本資料に関してご留意いただきたい事項—

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
 ■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

運用状況（作成基準日 2023年1月13日）

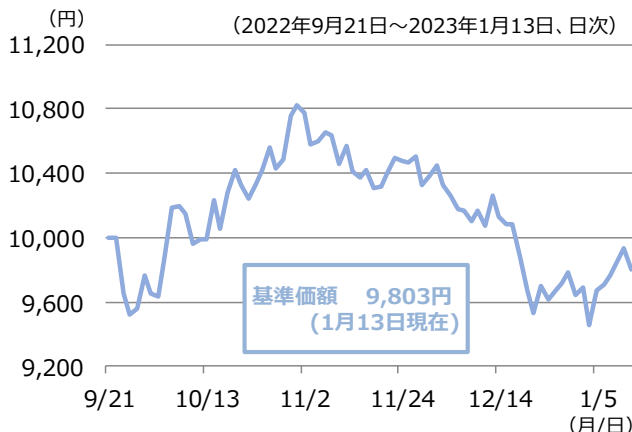
<為替ヘッジあり>

基準価額の推移



<為替ヘッジなし>

基準価額の推移



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。 ※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

ファンドデータ

基準価額	10,790円
残存元本	1,590百万口
純資産総額	1,715百万円

ポートフォリオ構成比率

フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド (為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)	97.8%
マネー・インベストメント・マザーファンドII	0.2%
短期金融商品その他	2.0%

ファンドデータ

基準価額	9,803円
残存元本	8,653百万口
純資産総額	8,482百万円

ポートフォリオ構成比率

フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)	97.9%
マネー・インベストメント・マザーファンドII	0.2%
短期金融商品その他	1.9%

※上記の各構成比率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

(作成 : 運用本部)

—本資料に関してご留意いただきたい事項—

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
 ■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンドに関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
 - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、各ファンド共通のリスクとして「株価変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「カントリーリスク」、各ファンド個別のリスクとして「為替変動リスク」があります。
- ※ 基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
 - 投資信託は預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います。
 - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
 - 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
 - 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
 - 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
 - 換金手数料：ありません。
 - 信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
 - 運用管理費用（信託報酬）
：純資産総額×年率1.265%（税抜1.15%）
 - 運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
：純資産総額×年率1.98%（税抜1.80%）程度
実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
 - その他費用・手数料
 - 監査費用：純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）
 - 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等を間接的にご負担いただきます。
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
 愛称 ザ・ディスカバリー
 追加型投信/内外/株式

販売会社

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○			
JIA証券株式会社	関東財務局長(金商)第2444号	○			○
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)